

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭) /
松永 哲郎

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容: 専門科目に関する知識や教養を培うのと同時に、それらの知識をいかにして学校現場で活用していくかその手立てを織り交ぜながら授業を展開する。
②授業方法: 専門の必要事項を単におぼえさせるのではなく、学生が考えながら答えを見つけていく方法をとる。そのため、配布資料等にあらかじめ答えを記載するのではなく、学生が考えながら資料を完成させるように配布資料や授業スライドを工夫する。その中で、学校現場でも応用可能な発展事項を含むように資料作成を行う。
③成績評価: シラバスに沿った成績評価を実施する。試験での評価においては、専門知識だけでなく、教員採用試験に関連する知識、実践に必要な知識を問う内容を扱う。

2. 点検・評価

①授業内容: 専門科目(食物分野)に関する授業において、教科書や参考図書に記述されている内容だけでなく、最新知見の情報を組み込んだ授業を実施した。また、学校現場を意識した実習等を積極的に授業に取り入れた。学校現場での教材の使い方について、その効果とともに現状と問題点を把握させ、より有効な活用方法に関する授業を行った。また、机上での学習だけでなく、実際に食物教材を使つての授業展開方法の実習を行った。
②授業方法: 単に知識の羅列ではなく、事象のメカニズムや日常生活との接点を意識した授業スライドや資料を作成した。実習においては、知識の再確認と同時に、学校現場においても実施可能な内容を積極的に取り入れた。
③成績評価: シラバスに沿った成績評価を実施した。試験内容には、教員採用試験でも取り扱う内容を積極的に扱った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 1) 授業・研究等、オフィスアワーを含めて、学生が質問できる時間を十分に設けそれに対応する。
- 2) 専門分野においては、専門的・技術的サポートを積極的に行う。
- 3) 実験・実習をともなう授業では、学生の安全に十分に留意する。

2. 点検・評価

- 年度目標において、
- 1) 授業終了後など学生が質問しやすい時間を十分に設け、オフィスアワーも含めて対応した。
 - 2) 専門分野において、学生にアドバイス等を行った。また、学校現場での専門知識の応用の仕方などの助言も行った。
 - 3) 実習をともなう授業では、学生の安全に留意し、ケガ等の事故の発生はなかった。
 - 4) 担当ゼミ生(3年生:2名)に対して、卒業研究に関する指導を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

- 1) 査読付英文雑誌へ研究成果を発表する。
- 2) 科学研究費補助金に申請を行う。
- 3) 研究成果を国内外の関連学会等で発表する。

2. 点検・評価

- 1) 共著(第二著者)の論文(タイトル:Polymorphism in the CHRNA4 gene is associated with rapid scene categorization performance.)が査読付英文誌(Attention, Perception, & Psychophysics)にアクセプト、publishされた。査読付英文誌へ論文(タイトル:Hyperoxia reverses glucotoxicity-induced inhibition of insulin secretion in rat INS-1 β cells)を投稿し(第一著者)、査読付英文誌(Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry)にアクセプトされた。
- 2) 科学研究費補助金に申請した。
- 3) 研究成果の論文文化に注力したため、学会発表は実施できなかった。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- 1) 大学院学校教育研究科入学試験委員会委員として大学運営に貢献する。
- 2) 鳴風会の幹事として大学運営に貢献する。

2. 点検・評価

中間報告

年度目標において、

- 1) 大学院学校教育研究科入学試験委員会委員として、前期選抜試験、中期選抜試験、後期選抜試験など関連職務を遂行した。
- 2) 鳴風会の幹事として、関連職務を遂行した。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 1) 附属学校での新任教員の研修を実施する。
- 2) 附属学校での研究授業や研究会に積極的に参加する。

2. 点検・評価

年度目標において、

- 1)2) 附属学校での新任教員の研修、研究授業、研究会(第57回附属中学校教育研究発表会、第60回小学校教育研究会、観察実習、ふれあい実習、附属中学校教育実習「研究授業」および「研究会」、主免教育実習の評価授業)に参加・見学等を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

本年度4月の着任であったが、担当授業のより学校現場での実践に近い授業構成の工夫、査読付き英文紙への投稿および掲載、大学院入試委員としての関連業務等、積極的に職務を遂行できたと思われる。